

令和7年度

# 学校関係者評価委員会

(兼 第2回学校評議員会)



日 時	令和8年2月3日 (火)	14時30分～
場 所	松山市立西中学校	校 長 室

# 令和7年度学校関係者評価委員会

( 兼 第2回学校評議員会)

1 日 時 令和8年2月3日(火) 14:30～

2 場 所 松山市立西中学校 校長室

## 3 目 的

- 西中学校の教育目標である「自ら学び、共によりよく生きる生徒の育成」の実現に向けて、地域や学校関係者の意見を取り入れながら、学校、家庭、地域の連携・協力による学校づくりを推進するとともに、学校関係者評価の足掛かりとする。

## 4 内 容

(1) 開会あいさつ 校長

(2) 学校評議員 自己紹介

- |            |        |                |
|------------|--------|----------------|
| ○ 戒能 潤之介 様 | 元PTA会長 | 愛媛県議会議員        |
| ○ 角田 敏郎 様  | 元PTA会長 | 松山市議会議員        |
| ○ 田中 務 様   | 元校長    | 生石公民館長         |
| ○ 替地 和人 様  | 元校長    | 松山市教育会生石支部長    |
| ○ 八木 昭憲 様  |        | 生石地区まちづくり協議会会長 |
| ○ 向井 かおり 様 |        | 主任児童委員         |
| ○ 伊藤 栄二 様  |        | PTA会長          |

(3) 学校出席者 自己紹介

- |        |       |
|--------|-------|
| ○ 校 長  | 篠原 希好 |
| ○ 教 頭  | 中屋 正貴 |
| ○ 主幹教諭 | 久米 寛和 |

(4) 議題

学校評価に関する考察と課題、改善策の説明

(5) 意見交換、情報交換

(6) 閉会あいさつ 校長

## 5 学校関係者評価委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、学校教育法第42条の規定に基づき、松山市立西中学校の学校関係者評価委員会に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 自己評価の結果を踏まえて分析及び改善方策等について検討し、その結果を公表する。

(事務局)

第3条 本委員会の事務局は西中学校に置き、庶務は教頭が行う。

(組織)

第4条 本委員会は、一 学校評議員、二 西中学校教職員をもって組織する。

(任期)

第5条 委員の任期は5月中旬～翌年度4月30日の1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 本委員会に委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は、本委員会を総理する。

(運営)

第7条 本委員会は、校長が招集する。

2 本委員会は、必要に応じて関係者を求め、その意見を聴くことができる。

(会計)

第8条 本委員会の運営にかかる費用は、後援会会計から充てる。

2 本委員会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

6 令和7年度 アンケート (12月に実施)

＜ 判定基準 ＞ 4、3、2、1での評価の平均により次の判定とする。

平均3.0以上・・・・・・・・・・A

平均2.5以上3.0未満・・・・・・・・B

平均2.5未満・・・・・・・・・・C

生徒アンケート

思わない ← 1 2 3 4 → 思う の4択

- ① あなたの学年・学級は楽しいですか。
- ② あなたは、授業に真剣に取り組んでいますか。
- ③ あなたは、家庭学習に進んで向かう習慣が身に付いていますか。
- ④ あなたは、読書に進んで向かう習慣が身に付いていますか。
- ⑤ あなたは、無言で一所懸命に清掃に取り組んでいますか。
- ⑥ 西中は、生徒会活動や集会活動など生徒が主体的に行う活動が充実していると思いますか。
- ⑦ あなたは、学校行事に進んで参加し、自分の役割を果たすことや仲間と協力することができていますか。
- ⑧ あなたは、道徳の時間やその他の学校生活の場面で「人間としてよりよく生きていく力」を身に付け、高めていくことができていると思いますか。
- ⑨ 西中は、部活動が盛んだと思いますか。
  - 1 西中の先生たちは、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業をしていると思いますか。
  - 2 西中の先生たちは、教科等の指導においてタブレットの活用等、効果的にICTを活用していると思いますか。
  - 3 西中の先生たちは、差別やいじめをなくすような指導をしてくれていると思いますか。
  - 4 あなたは、「西中いじめ根絶宣言」を意識し、実践できていると思いますか。
  - 5 西中の先生たちは、いけないことはいけないと指導していると思いますか。
  - 6 あなたは、挨拶ができるなど礼儀正しい生活が送れていると思いますか。
  - 7 あなたは、「幸せな学校生活にするために気をつけよう」など、集団生活における決まりを守って生活できていますか。

- 8 西中は、将来に夢を持ち、自分の進路や生き方について考えるための授業や指導をしていると思いますか。
- 9 西中は、避難訓練や登下校指導などをきちんと行い、生徒の安全によく気を付けていると思いますか。
- 10 西中は、健康観察や保健に関する指導をきちんと行っていると思いますか。
- 11 あなたは、状況に応じた感染症対策を適切に行っていますか。
- 12 西中の先生たちは、困っていることや悩みなどがあると、相談にのってくれたり、適切なアドバイスをしてくれたりしていると思いますか。

保護者アンケート    思わない   ←   1   2   3   4   → 思う   と  
よくわからない   の5択

- 1 西中は、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っていると思いますか。
- 2 西中は、教科等の指導においてタブレットの活用等、効果的にICTを活用していると思いますか。
- 3 西中は、生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っていると思いますか。
- 4 西中は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めていると思いますか。
- 5 西中は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てていると思いますか。
- 6 西中は、学校の決まりなど生徒指導体制の見直しを行い、生徒の実態に応じた適切な指導を行っていると思いますか。
- 7 西中は、将来に夢を持ち、自分の進路や生き方について考える生徒を育てていると思いますか。
- 8 西中は、生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めていると思いますか。
- 9 西中は、一人一人の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、生徒の健康保持・増進に努めていると思いますか。
- 10 西中は、状況に応じた感染症対策を適切に行っていると思いますか。
- 11 西中は、特別支援教育の視点を持って取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っていると思いますか。
- 12 西中は、管理職や学年主任等を中心として組織な対応を行っていると思いますか。
- 13 西中は、生徒たち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のための努力をしていると思いますか。
- 14 西中は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力していると思いますか。
- 15 西中は、学校・学年だよりやホームページ、メール等により、積極的に情報を発信していると思いますか。
- 16 西中は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めていると思いますか。
- 17 西中は、中1ギャップの解消につなげるために小学校と連携し、生徒の学校生活に対する不安感の軽減に努めていると思いますか。

- 18 西中は、教育の質の向上のために小学校と連携し、小中間の系統性を重視した学習指導に努めていると思いますか。

教職員自己評価アンケート 思わない ← 1 2 3 4 → 思う の4択

- 1 あなたは、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っていますか。
- 2 あなたは、教科等の指導においてタブレットの活用等、効果的に ICT を活用していますか。
- 3 あなたは、生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っていますか。
- 4 あなたは、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めていますか。
- 5 あなたは、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てていますか。
- 6 西中は、学校の決まりなど生徒指導体制の見直しを行い、生徒の実態に応じた適切な指導を行っていますか。
- 7 あなたは、将来に夢を持ち、自分の進路や生き方について考える生徒を育てていますか。
- 8 あなたは、生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めていますか。
- 9 あなたは、一人一人の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、生徒の健康保持・増進に努めていますか。
- 10 あなたは、状況に応じた感染症対策を適切に行っていますか。
- 11 あなたは、特別支援教育の視点を持って取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っていますか。
- 12 西中は、管理職や学年主任等を中心として組織的な対応を行っていますか。
- 13 あなたは、生徒たち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のため、積極的に研修に取り組んでいますか。
- 14 西中は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力していますか。
- 15 西中は、学校・学年だよりやホームページ、メール等により、積極的に情報を発信していますか。
- 16 あなたは、言語活動の充実及び展揭示の工夫等の環境整備に努めていますか。
- 17 西中は、中1ギャップの解消につなげるために小学校と連携し、生徒の学校生活に対する不安感の軽減に努めていますか。
- 18 西中は、教育の質の向上のために小学校と連携し、小中間の系統性を重視した学習指導に努めていますか。

令和7年度 教 育 計 画 松山市立西中学校			学校番号 21
校長名 篠原 希好	学級数 22 (内特別支援4)	生徒数 644 (内特別支援15)	教職員数 計41

【教育目標】

自ら学び、共によりよく生きる生徒の育成

【校訓】 礼節 克己 創意 躍動 連帯

確かな学力・体力

豊かな心

学び合い・高め合い

未来に生きる力

「みんな幸せな学校」をつくろう

学校

【教育の基盤】

連携・協力・分担

家庭

【生活の基盤】

地域

【社会の基盤】

## 1 重点目標

- (1) 確かな学力・体力の向上を図る指導の改善
  - ア 基礎・基本の確実な定着
  - イ 主体的に学習に取り組む態度と活用力の育成
  - ウ 個別最適な学びと協働的な学びのベストミックスによる授業づくり
- (2) 豊かな心を育む教育の充実
  - ア 仲間と感動を共有する生徒活動の充実
  - イ 生き方を学ぶ体験活動の充実
  - ウ 道徳教育・人権教育・特別支援教育の充実
- (3) 未来に生きる力を育む教育の充実
  - ア 個性を磨くキャリア教育の充実
  - イ ICTを効果的に使った学習の日常化
  - ウ 生きる力を育む自治活動の充実
- (4) チーム学校による教育の推進
  - ア 学校・家庭・地域の連携・協力・分担の推進
  - イ 学校からの情報発信と学校・家庭・地域の情報交換の推進
  - ウ 学校評価を活用した信頼される学校づくりの推進

## 2 管理運営

### 【人的管理】やりがいのある職場

- (1) 教育専門職としての研修の充実と実践的指導力の向上
- (2) 危機管理意識の徹底とサービスの厳正、コンプライアンスの徹底
- (3) 温もりと厳しさに基づく協働体制のある教師集団づくりと校務分掌組織の機能化
- (4) 働き方改革を意識した心身の健康保持・増進、活力の醸成と和やかな職場づくり

### 【物的管理】安全・安心な教育環境

- (1) 潜在危険の除去と安全及び衛生管理の徹底
- (2) 施設設備の点検・整備・拡充と効果的な活用
- (3) 豊かな情操の育成と潤いに満ちた教育環境の整備
- (4) 感染症、自然災害、火災、不審者対策を含めた危機管理の徹底

### 【事務管理】質の高い事務処理

- (1) 校務分掌の明確化・適正化と協力体制の確立
- (2) 公文書の迅速・的確な処理と厳正な管理・保管
- (3) 情報活用能力の向上と厳正な情報の管理による個人情報保護
- (4) 経理事務の厳正な処理と適切な運営

## 3 本校教育の特色

- (1) 創立46周年を迎え、校訓「礼節・克己・創意・躍動・連帯」を継承・発展し、更なる伝統と校風の構築を行う。
- (2) 「よしだの里」で培われてきた文化・伝統や長い歴史を基盤とした本校の立ち位置を常に確認しながら、生徒中心の教育活動を推進する。
- (3) 生石公民館や生石まちづくり協議会と連携することで、コミュニティスクール化を推進し地域と共にある学校づくりを行う。



## 令和7年度 生徒のみへのアンケート結果

※ 判定基準【A:3.0以上 B:2.5以上3.0未満 C:2.5未満】

①あなたの学年・学級は楽しいですか。	47%	35%	11%	7%	3.2	A
②あなたは、授業に真剣に取り組んでいますか。	49%	39%	7%	4%	3.3	A
③あなたは、家庭学習に進んで向かう習慣が身に付いていますか。	23%	41%	25%	10%	2.8	B
④あなたは、読書に進んで向かう習慣が身に付いていますか。	33%	27%	23%	16%	2.8	B
⑤あなたは、無言で一所懸命に清掃に取り組んでいますか。	40%	41%	13%	6%	3.1	A

⑥西中は、生徒会活動や集会活動など生徒が主体的に行う活動が充実していると思いますか。	47%	38%	9%	5%	3.3	A
⑦あなたは、学校行事に進んで参加し、自分の役割を果たすことや仲間と協力することができますか。	51%	35%	8%	5%	3.3	A
⑧あなたは、道徳の時間やその他の学校生活の場面で「人間としてよりよく生きていく力」を身に付け、高めていくことができますか。	53%	34%	8%	5%	3.4	A
⑨西中は、部活動が盛んだと思いますか。	62%	26%	7%	6%	3.4	A



# 令和7年度 評価アンケート集計と考察

※ 判定基準【A:3.0以上 B:2.5以上3.0未満 C:2.5未満】

番号	評価領域	評価指標	対象	評価					判定	総合判定	考察と課題	改善策の案
				4	3	2	1	平均				
1	教育課程・学習指導	一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業の実践。	生徒	35%	48%	12%	4%	3.1	A	B	<p>○保護者や教員の評価と生徒の評価にギャップがある。</p> <p>○保護者においては、学校での授業の取組が見える化されていないことが、評価の低さに繋がったと感じる。教職員においては、日々の多忙さの中で、授業づくりをどう工夫改善するかが課題である。</p> <p>○読書習慣だが、2024年度、2025年と読書週間が定着していないと考えている生徒が高水準である。図書館の利用時間は貸出冊数には大きく影響している。(11月:954冊→736冊→239冊、12月:1,157冊→921冊→673冊、前年度との比較で2か月で745冊減:図書システムデータ)読書の効能は学力向上と関連は深い。やはり読書習慣を定着させる改善策を全校体制で行うことが必要と思われる。</p> <p>○学習面では、1年総合で図書館で保管していた紙の資料とロイロノートに上げている郷土資料の両方を学年部の協力で活用することができた。</p>	<p>○基本的な学習習慣の確立が必要。</p> <p>○保護者に対しては、西中日記や西中だよりを活用して、授業を工夫している様子を発信する。</p> <p>○教職員においては、校外研修、校内研修(OJTの実施や、有益な資料の配付等含む)の機会を充実させ、授業力の向上を図る。</p> <p>○学力向上の土台となる読書習慣の定着を促すには、次の7点を考えている。</p> <p>①全学級で図書館利用のオリエンテーションを実施</p> <p>②図書館を使った授業</p> <p>③教員による読書への誘い</p> <p>④みきやん通帳(eilsによる電子読書記録アプリ)や紙媒体等を使った読書の振り返り。</p> <p>⑤朝読書の時間を大切にする</p> <p>⑥授業等の貸出機会の確保、学校司書の協力で授業日の全日開館を目指す</p> <p>⑦「学習センター」機能としての学校図書館への共通理解と公立図書館との連携</p>
			保護者	8%	60%	31%	1%	2.7	B			
			教職員	18%	64%	11%	7%	2.9	B			
		タブレットの活用等、効果的なICTの活用。	生徒	45%	38%	14%	3%	3.3	A	A	<p>○生徒、保護者、教職員ともに、タブレットの使用頻度は高い。</p> <p>○タブレットを活用して、ロイロノートやEILSを使った授業や定期テストの実施が定着している。</p> <p>○EILSやPBTの活用によってテスト採点の負担軽減に役立っている。</p> <p>○ICTの効果的な活用が必要であるが、それが目的にならないようにする必要がある。</p> <p>○今後、AI(Google Geminiなど)の活用が広がることに期待したい。</p>	<p>○十分に活用ができていて一方で、情報リテラシーの低さから、一部の生徒で誤った使用方法が見られる。この点については、短学活や各教科の授業等で、今後も継続して啓発指導をしていく必要がある。</p> <p>○情報モラル教育が必要である。ただ、教員の過度な負担にならないよう外部の方を講師としたものも必要である。</p>
			保護者	8%	55%	34%	3%	3.0	A			
			教職員	32%	54%	14%	0%	3.2	A			
		生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向けての計画的な指導の実践。	保護者	8%	55%	34%	3%	2.7	B	B	<p>○EILSやEILS-PBTの活用したテスト採点により、平均点だけでなく設問ごとの正答率を生徒に示すことができた。誤答の傾向が把握しやすく、授業改善につなげることができた。</p> <p>○EILSでテスト結果を返却することが多くなり、保護者の方に結果が届きづらい状況がある。</p>	<p>○日々の授業でねらいを明確にして、それを生徒と共有していることが大切だと思う。</p>
			教職員	32%	54%	14%	0%	3.2	A			
		地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成	保護者	20%	64%	16%	0%	3.0	A	A	<p>○保護者に月行事予定やテトルを利用して学校行事への参加を知らせたり、積極的に地域ボランティアへの参加呼び掛けを行っていることが高評価につながったと考える。</p>	<p>○引き続き、ホームページやテトル、校内放送、案内文書を活用して、学校行事や校外ボランティア参加の周知を図る。</p>
			教職員	25%	54%	14%	7%	3.0	A			

2	人権・同和教育、生徒指導	差別やいじめをなくす指導。	生徒	41%	35%	18%	6%	3.1	A	A	○全教育活動を通じて道徳教育を行い、考え、議論する道徳について全校体制で行うことができたが、人権・同和教育参観日の授業公開以外で保護者への啓発活動ができなかったことが課題である。 ○人権・同和教育問題に視点を当てた参観授業を行った。講師の先生をお呼びして、「言葉のチカラ」をテーマに講演をしていただく予定だったが、感染症の流行により、テレビ放送となったことが残念であった。生徒や保護者の感想は、自らの言動を振り返るものが多かった。人権週間には人権標語の掲示を行い、人権意識の啓発に努めた。	○参観日については、県の人権同和教育研究大会の時期を考慮しながら、11月実施を継続し、学校で行っている人権学習の様子を知ってもらおう。また、生徒に対しては、地道に指導を続けていく。それらについて、西中だより等を通して情報発信していく。
		「西中いじめ根絶宣言」への意識と実践。	生徒	54%	31%	9%	5%	3.3	A			
		人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度の育成。	保護者	7%	61%	26%	6%	2.7	B			
			教職員	39%	43%	18%	0%	3.2	A			
	いけな	いけないことはいけな	生徒	52%	34%	8%	6%	3.3	A	A	○生徒の規範意識の低下がみられる場面がある。指導は行っているが全生徒に響いておらず指導力不足を痛感する。  ○基本的生活習慣や決まり等の指導については、全体指導を行いしっかり生徒に理解させることから始め、それを踏まえて学年や学級、委員会あるいは部活動など様々な場面で生徒へ啓発を行えば効果があると思われる。  ○教師主体だけではなく、挨拶など生徒会や委員会とタイアップしこれまでに以上に充実させる必要がある。  ○個別指導や教育相談の時間を活用し、それぞれの生徒に応じた指導を充実することが必要である。  ○テールを活用し、保護者へ学校の現状を報告し、家庭の協力を得ることも大切。  ○道徳科では、よりよく生きていく上で大切な道徳的価値について自分事として考えさせることができた。	○一昨年度も昨年度も提案しているが、委員会の主体的な仕事や働きかけが必要であると考える。  ○生徒会本部の活動を生徒全体に広げていき、生徒の規範意識の向上と自治力の育成を図るためには、具体的に活動できる委員会は、学級委員長会であると思う。例えば生活の基本の4本柱といった啓発活動や掲示を行ってはどうか。  ○道徳化の授業で学んだことを実際の生活に生かしていくために、生徒集団の自治力を高めることが課題である。
		挨拶など礼儀正しい生活の実践。	生徒	52%	37%	8%	3%	3.4	A			
		集団生活における決まりを守っての生活の実践。	生徒	52%	36%	8%	4%	3.4	A			
			保護者	15%	50%	31%	4%	2.8	B			
		学校の決まりなど生徒指導体制の見直しや生徒の実態に応じた適切な指導。	教職員	25%	54%	21%	0%	3.0	A			
3	キャリア教育	将来に夢を持ち、自分の進路や生き方について考えるための授業や指導。	生徒	43%	44%	10%	4%	3.2	A	A	○今年度より県立高校のWEB入試が始まり、生徒・保護者への操作の仕方の伝達が不十分だったため、登録や入力に不備が生じた。教員も初めての取組だったため、生徒・保護者への周知徹底をすることが難しかった。このことで、WEB出願の高校が増えたことで、逆に事務処理は膨大かつ手間がかかるようになった。  ○3年間、日々の教育活動を通して、将来について考える機会(集会、教育相談、職場体験学習、少年式等)を設けてきてはいるが、そこで少しずつ積み上げてきたことが生徒個人の進路、将来に結びついていくということが保護者には見えにくかったのではないかと感じる。	○各高等学校によって、WEB出願の仕方が異なるため、操作や起案・点検の仕方等を見直し、来年度にきちんと引継ぎをしなければならないと思う。  ○県立高校特色入試については、生徒・保護社ともに十分に理解されていない方もいるため、入試システムを把握してもらうとともに各高校や愛媛県教育委員会のHPなどを定期的に見たり、体験学習に参加させたりして高校について知ることの充実を図っていきたい。  ○県立高校再編に伴った新学科の新設等があったため、学校だよりや西中HPなどを活用して生徒・保護者へ情報を伝達していきたい。  ○キャリアパスポートの活用。
			保護者	8%	56%	32%	4%	2.7	B			
			教職員	32%	57%	11%	0%	3.2	A			
4	安全管理	交通安全やけが等の防止への適切な指導。安全な環境づくりへの努力。	生徒	54%	34%	7%	5%	3.4	A	A	○防災教育においては、今年度、予告なしの避難訓練や教科担任が避難をさせる訓練などを実施し、非常変災時に教員・生徒ともに考え行動できるような内容で行った。そのことが、生徒・教職員の評価として高く出たと思われる。  ○保護者については、評価が低いため訓練状況の周知や保護者を巻き込んだの訓練を検討しなければならない。  ○生徒や教職員の評価は肯定的な回答が多いことに変わってはいないが、保護者からの回答がやや低下が見られる。  ○外部からの目線と学校内の視点の差を感じる。	○今後、来る非常変災に備えて、教職員・生徒の防災意識の向上と自身の命を守る行動が身に付くよう、あらゆる場面を想定した避難訓練を計画・実施していきたい。  ○ホームページ等を利用し、避難訓練の実際を保護者へ発信できるようにしていきたい。  ○教員から一方的な指導でいつも終わっていることが多いことから、安全面に対して生徒同士や教員も交えながら振り返っていくようにしたい。
			保護者	13%	64%	22%	1%	2.9	B			
			教職員	54%	39%	7%	0%	3.5	A			

5	保健管理	一人一人の健康状態を確認。環境衛生の維持・改善。生徒の健康保持・増進。	生徒	46%	40%	10%	5%	3.3	A	A	<p>○環境衛生や健康に関する意識は、生徒や教職員は高い。しかし、保護者は、そこまで良いとは感じていない。</p> <p>○秋以降、インフルエンザA型・マイコプラズマ肺炎感染症・新型コロナウイルス感染症が流行した。学級閉鎖もあったが、全校を巻き込む大流行には、至らなかった。</p> <p>○生活習慣の乱れから心身の不調を訴える生徒が多い。生活習慣改善に向けた指導の充実を図る必要がある。</p>	<p>○保健委員会の生徒による呼びかけ、園磨きアンケートや保健の放送など、健康の保持増進について啓発をしていく。保護者に対しては、保健だより等を通して、タイムリーな情報発信をしていく必要がある。</p> <p>○心身の健康問題の早期発見、早期対応に向けた健康観察、健康相談の充実を図る。また、保健室来室者については、保健室の機能を活かし、心身の観察、問題の背景、解決のための支援、関係機関との連携等、心と体の両面の対応をしていく。</p>
			保護者	13%	69%	17%	0%	2.9	B			
			教職員	46%	43%	11%	0%	3.4	A			
		「換気の確保」や「手洗いなどの手指衛生」など、状況に応じた感染症・熱中症対策。	生徒	54%	34%	8%	4%	3.4	A	A	<p>○熱中症対策や換気の確保・手洗いなど、できていない生徒は1割程度いる。しかし、できていないと感じている保護者は、その2倍である。</p> <p>○一部の生徒であるが、せっけんで遊んだり、アルボース液やその入れ物を壊したり、水遊びをしたりする事例が相次いだ。全体としては頑張ろうとしているが意識の低い生徒に対する指導が困難である。</p>	<p>○保健委員会の活動の一環として、手洗い場のアルボースせっけん液の補充、手洗い、換気の呼びかけなどの活動の充実を図る。</p> <p>○保健だよりや保健委員会の生徒による校内放送などを通して感染症予防対策の啓発を行う。</p> <p>○保健室前掲示板を通して、楽しみながら保健を学ぶ場を作り、啓発を図る。</p>
			保護者	14%	66%	20%	1%	2.9	B			
			教職員	39%	54%	7%	0%	3.3	A			
6	特別支援教育	特別支援教育の視点を持って取組と個に応じた配慮や指導の適切な実践。	生徒	46%	37%	10%	6%	3.2	A	A	<p>○R6年度と比べると、保護者からの評価が下がっている(平均3.1→2.9)。保護者への連絡を密にし、連携をとっていくことの大切さを念頭に置いているつもりであったが、伝わり切れていないことの表れであろうと思われる。</p>	<p>○保護者への連絡の際、「結果報告」としてだけでなく、出来事の前後の生徒の様子などを丁寧に伝えたり、保護者の意向や考えを聞き出すように話を進めたりする必要がある。</p>
			保護者	12%	64%	23%	1%	2.9	B			
			教職員	25%	64%	11%	0%	3.1	A			
7	組織運営	管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応。	保護者	18%	62%	18%	2%	3.0	A	A	<p>○学年部内での積極的な情報交換や、管理職と生徒指導主事、学年主任間の情報交換が密に行われている結果であると認識する。</p> <p>○学級担任が適時保護者に電話連絡し、情報共有している結果がA評価として表れていると認識する。</p>	<p>○引き続き、諸問題に対して一人で抱え込まず、教員集団で解決策を模索し対処する取組を継続していく。保護者との情報共有も、引き続き、適時行っていく。</p>
			教職員	29%	46%	18%	7%	3.0	A			
8	研修	生徒一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のための努力。	保護者	8%	57%	32%	3%	2.7	B	B	<p>○授業規律が整い、生徒が主体的に学べる授業を行いたいと思うが、難しさを感じる。</p> <p>○各教科でICT活用の実践を進めている。</p> <p>○生徒指導的な問題から、学習形態に制限がある学年があり、話し合い活動やグループ学習などで練り合い、高め合うことが難しかった。</p> <p>○研究授業の放課後に研究協議を予定していても、生徒指導や出張の関係で中止になることもあった。参観した先生方全員の意見を聞く機会が十分ではなかった。</p>	<p>○出前授業などをうまく活用し、ICTの研修の機会を発信していく。</p> <p>○年度初めに研究授業の日程を設定する。また、研究協議の予定も週案に入れるなど、多くの先生方に話し合いに参加してもらえるよう調整する。</p>
			教職員	28%	54%	18%	0%	3.1	A			



9	保護者、地域との連携、情報提供	教育活動の充実に向けての地域や保護者と連携・協力。	保護者	14%	65%	18%	3%		2.9	B	B	<p>○ロイロや学級通信、電話連絡等で情報発信を行い、連携・協力を図ろうと努めている。</p> <p>○職場体験学習では、地域の事業所の方々の御協力を得て、2年生が有意義に実施することができた。</p>	<p>○地域で学校を支える視点を忘れず、情報発信に取り組んでいきたい。</p>
			教職員	21%	61%	14%	4%		3.0	A			
		学校・学年だよりやホームページ、メール等による積極的な情報発信。	保護者	26%	56%	14%	4%		3.1	A	A	<p>○昨年度に引き続き、行事予定や部活の予定など、テトルを活用することで、必要な情報を保護者に連絡することができた。</p> <p>○テトルや西中日記、西中だよりなどを通して、情報発信に努めることができていると思う。</p>	<p>○今後もホームページやテトルを活用して、必要な情報発信に努めていきたい。</p> <p>○継続して電子化の長所を生かした、情報発信に努めていきたい。</p>
			教職員	28%	54%	18%	0%		3.1	A			
10	教育環境整備	言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備。	保護者	10%	64%	38%	0%		2.8	B	A	<p>○昨年度は保護者のうち「不明」が24%を占めていた。前年度との単純な比較はできないにしても、保護者の4の評価が下がっていることが気にかかる。教職員も同様。</p> <p>○年間を通じ、各学年にふさわしい適切な季節・行事に関する展示ができていた。</p> <p>○ポスターは内容によって校内の掲示場所を決めた。(正岡子規など郷土に関するものは図書館へ。)生徒作品の他、委員会で作成した学級新聞や生徒の手による掲示物もあった。行事、走ろう会などは生徒の活発な活動がよくわかる掲示だった。</p>	<p>○引き続き生徒の活動を中心に掲示に反映していきたい。また進路情報なども適切に伝えられるようにしていく。</p>
			教職員	28%	61%	11%	0%		3.2	A			
11	幼保小中連携	中1ギャップの解消、生徒の学校生活に対する不安感の軽減のための小学校との連携。	保護者	9%	50%	38%	3%		2.6	B	B	<p>○小中連携は、入学前の情報共有に主に頼っている。じっくり時間をかけるのが必要と思われるが、時間に余裕がない。</p> <p>○小学校卒業後から、入学までの時間が短く一人一人に対する事前の準備が乏しくなる。</p>	<p>○十分に対応するためには、人員を増やすことが必要。</p> <p>○個に応じた対応を共通理解のもとに行う。ケース会議などの支援会議は随時行う。</p>
			教職員	14%	46%	33%	7%		2.7	B			
		教育の質の向上、小中間の系統性を重視した学習指導のための小学校との連携。	保護者	8%	48%	41%	3%		2.6	B	B	<p>○今年度から教科書が新しくなり、各単元内容と小学校での学習内容を照らし合わせる事が十分にはできていなかった。</p>	<p>○小学校での学習内容だけでなく、さくら・生石の両小学校の学習状況なども把握する。また、小学校の情報教育担当者や連携し、一人一台端末の使用頻度や活動内容を確認する。</p>
			教職員	11%	43%	39%	7%		2.6	B			

# 令和7年度 学校関係者評価委員会での意見

松山市立西中学校

## 1 教育課程・学習指導について

- ・学力と生徒評価の相関関係が分かるようなデータがあればよい。
- ・個別最適な学びについて、どのような実践を行っているか？  
→タブレットを活用して、個々の意見を発表したり、練り合いの場を設けている。
- ・先生不足について、どのような場面で感じているか？  
→生徒指導場面や休職された先生のフォロー時。
- ・基本的な学習習慣の確立を継続して実施する。
- ・読書力の低下について、西中ではどうか？  
→朝学習や昼休みの時間を利用して、推進している。

## 2 人権・同和教育、生徒指導について

- ・生徒指導面について、現在の状況は？  
→現状維持の状態。成長していけるよう指導継続している。
- ・評価を見ると、保護者は中学校側にもっとしつけてほしいと願っているのでは。保護者自身が子のしつけを学校に委ねている側面もある。

## 3 キャリア教育について

- ・学校の考察と課題、改善をもとに推進するとよい。

## 4 安全管理について

- ・下校時の寄り道や立ち話など、迷惑行為は引き続き指導していく。

## 5 保健管理について

- ・学校の考察と課題、改善をもとに推進するとよい。

## 6 特別支援教育について

- ・日々様々な出来事があり、指導の意図が十分に伝わらない状況があるため、生徒が納得できるような指導を行っていく。

## 7 組織運営について

- ・学校の考察と課題、改善をもとに推進するとよい。

## 8 研修について

- ・生徒一人一人が分かる授業の実践を行うため引き続き研修に取り組み、教師の力量を高めていく。

## 9 保護者、地域との連携、情報提供について

- ・今年度、様々な地域ボランティアを実施されたが、参加した生徒は生き生きと活動していた。主催者側としてはとてもありがたい。

## 10 教育環境整備について

- ・時期に応じた掲示物作成に取り組んでいるが、先日掲示物へのいたずらがあったのが残念。

## 11 幼保小中連携について

- ・連携の取組が見えづらいので、低評価につながったのではないかと。

## 12 その他

- ・特になし

## <にっしーのストーリー>

五つの花弁で表している西中の校章「礼節・克己・創意・躍動・連帯」が背中についています。雨の日の校庭にできた水たまりに現れる引っ込み思案で優しい首長竜です。特別な力はないですが、短い手をパタパタし、出会った人を癒してくれます。

